がんばろう！岩手
築こう未来

みんなが笑顔になれる日を
信じて、ともに、未来へ！

いわて生協震災復興2か年の取り組み記録
(2011−2012)

COOP IWATE

発刊にあたって

東日本大震災から早２年が過ぎました。岩手県とりわけ沿岸地域は津波による甚大な被害を受け、今も４万人以上もの多くの方々が仮設住宅での困難な生活を余儀なくされています。いわて生協も12億円もの大きな被害を受け、急遽、「震災復興２か年計画」を策定し、2011年度、2012年度の２年間、被災者・被災地の復旧・復興支援といわて生協の経営再建に全力であたってまいりました。

支援活動では、震災直後からの炊き出しや移動販売をはじめ、バスボランティアやふれあいサロン、被災メーカー・生産者への支援など、被災地・被災者に寄り添ったさまざまな活動を、いわて生協 21万人組合員と2,000名常勤者の協同の力で継続してまいりました。また、事業経営面においては、2011年度は４億７千万円の赤字予算という大変きびしい経営見通しでのスタートでしたが、2011年度・2012年度ともに黒字決算とすることができ、震災の被害・影響を克服し新たな一歩を踏み出すための経営基盤を確立することができました。これもひとえに、全国の生協のみなさまからのたくさんの支援と、組合員の利用・協同の結果であり、「人と人とがつながり協同することの力の大きさ、すばらしさ」をあらためて実感いたしております。

日本生活協同組合連合会をはじめ、全国の生協や団体のみなさまからの物心両面にわたる多大なご支援と、県内の多くの団体のみなさまのご協力に、組合員を代表し深く感謝申し上げます。

被災地の復旧･復興は少しずつ進んではおりますが､さらに長い年月が必要です｡いわて生協は､被災地の生協」として、21万人組合員や地域のみなさんと力を合わせて、これからも息の長い支援活動をすすめていくことを決意しております。みなさまの引き続きのご支援・ご協力を切にお願い申し上げます。

今、日本の姿が大きく変わろうとしています。先の総選挙の結果、消費税増税、ＴＰＰ交渉への参加、社会保障のますますの後退、原発再稼動、憲法を改悪し外国で戦争のできる国にするなど、国の有り様を大きく変えてしまうさまざまな動きが顕在化し、平和と安全・安心が根底から脅かされ、わたしたちの日々のくらしもいっそう大変な状況に向かうと予測されています。

震災からの復興はもちろんのこと、これらの問題についても積極的に取り組み、人が大切にされ、安心して暮らせる社会・地域をめざして、その役割を果たしてまいりたいと思います。

この２年間の復興支援の取り組みで学んだ「人と人とのつながり」「協同」のすばらしさに確信をもって、「がんばろう！岩手　築こう未来」。

いわて生活協同組合
理 事 長　飯塚明彦

「がんばろう！岩手」を掲げ 協同の力で、全力で 取り組んだ被災地支援

第６次中期計画（2009～2011年度）の最終年度を迎えようとしていた2011年３月に東日本大震災が発生し、いわて生協も事業面では12億円という大きな被害を受けました。急遽、第６次中期計画を終了し、震災からの復興と経営再建をめざす２か年計画を作成し、21万人組合員と2,000千名常勤者の協同の力で、そして全国の生協や団体から支援いただきながら取り組みました。

震災復興２か年計画（2011～2012年度）

１．岩手の復興のために、事業・活動の両面で、被災地の支援と県内生産者・メーカーの支援に取り組みます。

２．2012年度には何としても赤字を克服し、2013年度からは新たな発展のための事業展開に向かえるようにします。

目　次

発刊にあたって（理事長あいさつ）…… 1P
岩手県の被害状況と現状 …… 4P
いわて生協の被害 …… 5P
今できることを精一杯に（緊急支援）…… 6P
組合員のくらしを支えるため事業を継続 …… 7P
被災地の要望にこたえてさまざまな支援を …… 8P
毎日の買い物の支援や収入支援も …… 10P
「自分にできることを」と、ボランティア活動 …… 12P
こんな時だからこそ、地域のために …… 14P
商品を利用することで復興を支援しよう …… 16P
「心もからだも温かく過ごしてほしい」…… 18P
買い物不便を解消し、くらしを支えて …… 20P
支援活動を支えた組合員の募金 …… 21P
全国の生協からの支援 …… 22P

写真提供：岩手日報社

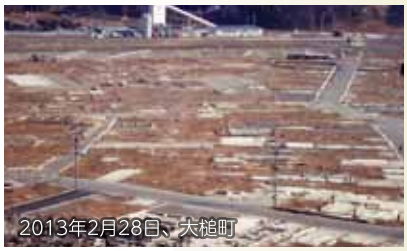
岩手県の被害状況と現状

2011年3月11日14時46分、宮城県沖130kmの海底を震源として発生した東北地方太平洋沖地震は、日本の観測史上最大のマグニチュード9.0を記録、最大震度は7となりました。この地震によって最大遡上高40.5mにものぼる大津波が発生。東北地方の沿岸部に壊滅的な被害をもたらした東日本大震災となりました。また、東京電力福島第一原子力発電所で大事故が発生、16万人を超える人々が避難を余儀なくされ、2年経った今でもふるさとへ戻ることができません。岩手県においても、がれき処理や住まい、産業の復旧など、解決すべき問題が山積しています。

岩手県全体

死者：5,048人
行方不明者：1,151人
負傷者：不明
家屋倒壊：24,928棟
未処理のがれき：368万5,812トン
仮設住宅入居：14,951戸
35,577人
人口減少：17,572人

2013年2月28日、釜石市



2013年2月28日、大槌町

洋野町
死者 0人・行方不明者 0人・負傷者 0人
家屋倒壊 26棟・仮設住宅入居 9戸21人
人口減少 538人・未処理のがれき 9,360トン

久慈市
死者 3人・行方不明者 2人・負傷者 10人
家屋倒壊 278棟・仮設住宅入居 89戸229人
人口減少 619人・未処理のがれき 6万251トン

野田村
死者 39人・行方不明者 0人・負傷者 19人
家屋倒壊 479棟・仮設住宅入居 211戸570人
人口減少 238人・未処理のがれき 9万5,813トン

普代村
死者 0人・行方不明者 1人・負傷者 4人
家屋倒壊 0棟・仮設住宅入居 1戸2人
人口減少 89人・未処理のがれき 3,454トン

田野畑村
死者 17人・行方不明者 15人・負傷者 8人
家屋倒壊 270棟・仮設住宅入居 192戸419人
人口減少 175人・未処理のがれき 3万8,119トン

岩泉町
死者 10人・行方不明者 0人・負傷者 0人
家屋倒壊 200棟・仮設住宅入居 133戸309人
人口減少 437人・未処理のがれき 6万3,858トン

宮古市
死者 456人・行方不明者 94人・負傷者 33人
家屋倒壊 4,005棟・仮設住宅入居 2,235戸5,208人
人口減少 2,179人・未処理のがれき 33万8,590トン

山田町
死者 663人・行方不明者 149人・負傷者 不明
家屋倒壊 3,167棟・仮設住宅入居 2,123戸4,920人
人口減少 2,214人・未処理のがれき 45万169トン

大槌町
死者 850人・行方不明者 437人・負傷者 不明
家屋倒壊 3,717棟・仮設住宅入居 2,166戸4,923人
人口減少 3,087人・未処理のがれき 45万4,508トン

釜石市
死者 978人・行方不明者 152人・負傷者 不明
家屋倒壊 3,655棟・仮設住宅入居 3,272戸7,624人
人口減少 2,718人・未処理のがれき 61万2,772トン

大船渡市
死者 411人・行方不明者 80人・負傷者 不明
家屋倒壊 3,934棟・仮設住宅入居 2,320戸5,650人
人口減少 1,693人・未処理のがれき 29万9,817トン

陸前高田市
死者 1,594人・行方不明者 217人・負傷者 不明
家屋倒壊 3,341棟・仮設住宅入居 2,200戸5,702人
人口減少 3,585人・未処理のがれき 125万9,101トン

※死者、行方不明、負傷者、家屋倒壊は2013年3月31日岩手県発表より。仮設住宅入居、人口の減少、未処理のがれきは2013年2月1日現在の岩手県発表より。
死者数は、災害関連死を含む。家屋倒壊数は、全壊および半壊の数。仮設住宅入居は、みなし仮設を含む。人口は、2011年3月1日と2013年2月1日の比較。

変わり果てた街（陸前高田市）　写真提供：岩手日報社

津波被害を受けた共同購入釜石センター（釜石市）

津波で流された共同購入トラック（大船渡市）

いわて生協の被害

施設被害や営業停止などにより供給減、停電による冷蔵・冷凍商品の廃棄なども含めた損失額は約12億円になりました。

1 沿岸事業所の被害

共同購入 釜石センター	津波で浸水、建物損壊、業務用車両2台流失
共同購入 けせんセンター	津波で浸水、建物損壊、配達トラック4台・灯油ローリー車1台流失
共同購入 宮古センター	配達トラック3台流失

けせんセンター：被害時

けせんセンター：現在

2 内陸事業所の被害

盛岡市	ベルフ青山（店舗）	スプリンクラー作動し放水、壁・蛍光管等の落下
奥州市	コープアテルイ（店舗）	スプリンクラー作動し放水、空調設備落下、シャッター損壊
一関市	コープ一関コルザ（店舗）	防炎ガラス破損・落下、壁に亀裂
滝沢村	いわて生協本部	事業本部棟：正面玄関風除室倒壊、2階一部破損 加工物流棟：排水管の破損で2日間休業

本部：被害時

本部：現在

3 組合員の被害

（沿岸地域の共同購入利用組合員）

無　事	17,575人（94.7%）
死　亡	188人（ 1.0%）
行方不明	50人（ 0.3%）
未 確 認	741人（ 4.0%）

（2013年３月20日までの確認）

4 職員の被害

		本人	家族
死　亡		1人	11人
行方不明		0人	6人
家屋	全壊・全流失	44人	
	半　壊	14人	
	一部壊・床上浸水	37人	
自家用車の流失		52人（台）	

ICA（国際協同組合同盟）からの義援金を基に、再築されました。

「無事でよかった」（2011年3月20日、大船渡市）

今できることを精一杯に

今までの当たり前の生活を一瞬にして奪い、沿岸地域を壊滅させた東日本大震災。いわて生協は発災後すぐに災害対策本部を立ち上げ、被害状況と被災地の要望を把握しながら、事業と組合員の助け合いにより被災地のくらしを支えました。

できることから支援を！

発災後5日目の3月16日から3日間は、毎日3千個のおにぎりを組合員ボランティアが作り、被災地へ届けました。また、3月19日～4月10日には「避難所の食事がパンやおにぎりだけでは心配。温かいものを食べてもらおう」と豚汁、牛丼、うどん、せんべい汁などを提供。のべ330人の組合員ボランティアの活動と、他生協の支援（6生協72人）により、合計3万970食を61避難所に届けることができました。

自治体からの要請に積極的に対応

発災当日から、岩手県と岩手県生協連の「災害時における生活物資の確保に関する協定」に基づき、要請のあった食料品や生活物資等の緊急物資を調達し、指定の場所へ納品し続けました。また、いわて生協から避難所へ直接の物資提供も行いました。店舗でも宮古市・一関市からの要請にこたえ、食料品などを提供しました。

さらには、多数の死者が出ている中、県内23か所の火葬場への灯油2万6,062リットルや棺240本、骨箱1,200個、一輪菊1,500本の納品も行いました。

岩手県などからの要請に応えて支援物資を届けました。

日本生協連や全国の26生協・県連と農民連など6団体、いわて生協からの支援物資	
83万点　約1億4,500万円相当	
岩手県を通じて提供 **約6,200万円**相当	直接避難所などへ提供 **約8,300万円**相当

牛丼1万食プロジェクト

全国肉牛事業協同組合より、牛肉720kgのほか、玉ねぎなどの食材・調味料の支援をいただき、組合員ボランティアが「牛丼1万食」を作り、4日間に渡り避難所で提供しました。

肉も野菜もたっぷりの牛丼が喜ばれました。

全国肉牛事業協同組合の山氏徹理事長（右）が直々に届けてくださいました。

店頭で供給（2011年3月14日、コープ一関コルザ）

移動販売（2011年3月19日、釜石市）

組合員のくらしを支えるため事業を継続

震災により県内全域で停電となり、物流やコンピュータシステムも停止、本部との通信手段も絶たれ、店舗営業や共同購入配送の継続は困難な状況に。しかし、「地域のためにできることを」とそれぞれの現場で必死に取り組みました。

店舗は震災当日に営業再開

店舗は、3月11日・4月7日と停電や施設被害をうけながらも、全店で営業を継続。店内での営業ができない店は、店頭で供給しました。物流が止まり、商品メーカーの被災もあり、1か月近く商品不足の状況が続く中、被災地の宮古4店舗へ商品を集中し、被災地のくらしを支えました。

開店前から数百人が並んだマリンコープドラでは、高校生ボランティアが冷静な買い物を呼びかけました。

共同購入は再開時に安否確認も

共同購入も、配達が3週間ストップしましたが、限られた商品数ながら3月28日からカタログをお届けすることができました。被災地ではお見舞い品をお届けしながら、共同購入利用組合員18,554人の安否確認を行いました。

「配達担当の方の顔を見て、ホッとした」との声も聞かれました。

「焼け野原を走る共同購入トラックを見て、うれしかった」と、多くの組合員さんが共同購入の再開を喜んでいました。

「移動販売」で買い物支援

「買い物する店がなくなった」などの声にこたえて、3月19日～4月2日に120か所で「移動販売」を実施。3,300人にご利用いただきました。

一日でも早く共済金・お見舞金をお支払いしよう！

共済事業では、住宅被害を受けた方、ご家族をなくされた方へ一日でも早く共済金・お見舞金をお支払いするため、訪問活動を実施しました。4月15日から40日間、全国の生協からも応援をもらい、沿岸の個人宅・避難所4,751軒を訪問。1,538軒はその場で「異常災害見舞金対象と判定」でき、手続きを迅速にすすめました。その後も継続してお知らせし、お支払いしました。

避難所では相談コーナーを設けて対応しました。

支払い内訳	件数	金額
震災由来共済金	1,752件	14億5,007万円
異常災害見舞金	4,794件	1億6,582万円
計	6,546件	16億1,589万円

（2013年3月20日まで）

被災地の要望にこたえて さまざまな支援を

弁当を作るのも配達するのもボランティアで。

想定を大きく超える大津波に、着の身着のまま避難した方々は不便・不自由な避難所生活を強いられました。避難所によっては十分な食事が届かず、支援物資も行き届かないところも。仮設住宅への入居後も不便なくらしは続き、そうした方々の要望にこたえる支援を行ってきました。

栄養豊富でバランスのいい食事を届けたい

避難所生活が長期化する中、「毎日の食事づくりが、係の女性たちの負担になっている」「食材が限られ、栄養面が心配」などの声が聞かれるように。そこで、弁当を作って避難所へ届ける活動を、いわて食・農ネットといっしょにスタート。2011年5月10日～7月28日、のべ472人の組合員ボランティアが、陸前高田と大槌の避難所へ週1回ずつ、計21回・5,918食を届けました。

「被災地に行っての活動は時間的にも体力的にも無理だけど、これなら！」と、多くの組合員が参加。

自治体の要請にこたえ、店舗から弁当支援

宮古市からの要請にこたえ、2011年4月9日から毎日、避難所3か所の三度の食事（約1,300人分）をマリンコープドラで製造・配達。5月からは幼稚園の給食用も加わり、ベルフ西町でも製造し、8月まで合計約9万6千食を提供し続けました。

通常の店舗営業に加え、千人以上の1日3回の食事を提供し続けました。

組合員どうしの物資交換

「遺体に浴衣を着せてあげたいけれど、ありませんか？」という声が寄せられたことがきっかけで、組合員どうしの物資交換が始まりました。組合員が自主的にマリンコープドラ内にコーナーを作って支援物資を募り、必要な方にお渡し。2011年3月17日～4月17日の1か月間で500人以上からの提供があり、約2千人にお渡しすることができました。

2011年3～4月、マリンコープドラで取り組んだ物資交換。

2011年8月、内陸に避難している方への喪服提供会(盛岡市)

2011年7月、大船渡市綾里の仮設住宅で

合同慰霊祭、お盆までに喪服・礼服を

「喪服はないの？」と聞かれたマリンコープドラ店長が、組合員といっしょに2011年5月に始めた取り組み。いわて生協組合員のほか、インターネットや新聞で全国へ呼びかけ、店舗を拠点に喪服・礼服の募集と提供を行いました。7月からはいわて生協全体で取り組み、葬祭会館「セリオホールみやこ」や避難所・仮設住宅 39 か所で、5,042人にお渡ししました。1,255人の組合員・個人・団体から、また全国の9生協から、バッグや靴なども含めて 5,300点が寄せられました。

大阪の組合員さんからの食器支援も

「仮設住宅に入居された方々に役立てて」と、おおさかパルコープの組合員さんから食器類や台所用品(約10トン)が届きました。2011年7～ 10 月、いわて生協職員のボランティアや日本生協連の協力で提供会を実施。岩泉・山田・大槌・釜石・大船渡・陸前高田の仮設住宅43か所で2,350人の利用があり、たいへん喜ばれました。

「暑い夏を乗り切って」とバスタオルを

仮設住宅では、エアコンはあるものの断熱建材が使われていないなど、暑さに悩まされていました。また、多くの水産冷凍庫や加工施設が被災し、がれき処理がすすまないことから、夏に向かって腐敗とハエの大発生が問題となっていました。そこで、2011年 7月末に急遽バスタオルを組合員から募集。 1週間で 2 千枚以上が寄せられ、ハエ取りリボンと「暑い夏を乗り切って」のメッセージを添え、8 月上旬、仮設住宅の組合員1,145人に届けました。

2011年7月、バスタオルとハエ取りリボン、メッセージをボランティアがセット。

「支援してほしい」と「支援したい」をつないで

このほか、被災地の組合員からの要望にこたえ、カレンダーやうちわ、傘、ハンカチや本などを、内陸の組合員が地域ごとに呼びかけて集め、被災地へ届けました。

また、「被災地へ」とパラグアイから提供された大豆10トンで、平川食品（盛岡市）が豆腐20万丁を製造。この豆腐を被災地へ届けることにいわて生協も協力し、共同購入利用者1,380人に合計4,140丁を届けました。

2011年5月～6月、全国からたくさんのカレンダーが寄せられました。

豆腐のパッケージには「心はひとつ　パラグアイ国民は日本を応援します」のメッセージが。

毎日の買い物の支援や収入支援も

大津波やその後の火災により街全体が壊滅状態となり、日々のくらしに必要な食料品などの買い物に困っている方々を、事業を通して支援してきました。また、被災された方の収入支援にも取り組んできました。

共同購入利用で「買い物不便」を解消

大震災により、共同購入は沿岸部の利用者が4,200人減少するという、大きな被害を受けました。これを回復させることと、買い物の不便を解消し被災地のくらしに役立つことをめざし、共同購入（個人宅配）利用をおすすめ。2011年6～8月、全国の生協から応援いただき669人を、2011年度合計では16,176人（班員4,760人、個人宅配11,416人）の利用者を増やすことができました。この2年間では、3万231人が新たに共同購入の利用を始めました。

山田町で共同購入のおすすめ訪問をする生協共立社（山形県）の職員。

配達手数料を優遇「被災者支援サービス」

被災地にお住まいの方と被災された方を対象に、個人宅配の配達手数料を1回100円（通常240円）に優遇する「被災者支援サービス」を、日本生協連の支援を受けて2011年8月から実施。登録受付は終了しましたが、サービスを受けられる期間を3年間延長しました。

被災者支援サービス登録人数

年度	登録人数
2011年度末	4,447人
2012年度末	4,841人
最高（2012年9月）	5,145人

助かります！

個人宅配の被災者支援サービスが期間延長になってうれしいです。お店で買えない商品が個人宅配（共同購入）にはたくさんあり、今ではお気に入りの商品は、載ってくるたびに購入しています。（宮古市の組合員さん）

イベントカーでのお知らせ活動も

2012年9月からは、みやぎ生協とコープふくしまからお借りしたイベントカーで仮設住宅を訪問。コープ商品を試食してもらい、共同購入利用をおすすめました。3か月間に40会場（367人来場）で実施し、34人の加入・利用につながりました。

人気のコープ商品を試してもらいながら共同購入をお知らせ。2013年度も取り組む予定です。

仮設住宅での共同購入利用

年度	利用戸数	利用率
2011年度	2,235戸	16.3%
2012年度	2,611戸	19.1%

（2013年3月20日現在）

「臨時お買い物バス」を運行

自治体からも要望が出され、2011年4～9月、マリンコープドラ行き「臨時お買い物バス」を山田町コース、宮古市の津軽石・磯鶏コース、田老コースの3コース運行。3,623人のご利用がありました。田老コースは組合員の要望にこたえ、1日・15日（5%引きの日）の運行を続けています。

「出張販売会」52会場で開催

仮設住宅に入居された方々からの要望にこたえ、2011年6~7月には50会場で、11月には2会場で出張販売会を開催。野菜・果物や食品、調味料、生活雑貨、また、その時期に必要な衣類や家電品などを販売したほか、いわて生協や全国の生協組合員からの支援物資も配布し、喜ばれました。合計で3,100人のご利用がありました。

葬祭事業「セリオ」を沿岸でもスタート

震災のため計画より1か月遅れましたが、2011年6月に「セリオホールみやこ」をオープン。お盆前に仏壇・仏具や灯篭の臨時相談会を開催し、仮設住宅に置けるコンパクトサイズの仏壇や仏具を買い求める方が多くいました。

釜石では、被災して廃業した地元業者の会館を譲り受けて、2012年3月より事業を開始しました。

「セリオホールみやこ内覧会」で仏壇・仏具を展示。

商品販売で収入を支援

仮設住宅でのくらしが始まると、収入と生きがいづくりをめざし、手芸等に取り組むグループが生まれてきました。そうした手作り品や被災地の福祉施設、復興支援団体の商品を、組合員活動の会場やイベント、店舗・共同購入で販売し、収入を支援してきました。また、全国の生協にも紹介し、多数のご利用をいただいています。

店舗では復興応援商品コーナーを設置。2012年3月・9月、2013年3月には組合員ボランティアがおすすめし販売しました。

共同購入でも定期的に取り扱いました。

生協まつりなどのイベントでも販売。

年度	販売点数	販売額
2011年度	25,516点	706万8,032円
2012年度	43,234点	1,197万8,206円
計	68,750点	1,904万6,238円

作る楽しさや会える楽しさも

支援物資の衣類や手ぬぐいなどを「一つもムダにしたくないね」と、みんなでアイデアを出し合って作っています。自分で働いて得たお金は少額でもうれしいですし、「お金よりも、作るのが楽しいから」「みんなと会って話ができるのが楽しい」という気持ちもあり、続けています。

大船渡中仮設「願いのハーモニー」のみなさん。

2011年11月、陸前高田市で畑の整地作業

2011年9月、大槌町で川のヘドロ撤去

2012年5月、大槌町の吉里吉里海岸の清掃

2012年8月、陸前高田市で「ひまわりプロジェクト」に参加

「自分にできることを」と、ボランティア活動

「被災地の役に立ちたいけれど、自分一人ではどうしたらいいか…」。そんな組合員・県民の思いに応え、被災地のニーズに沿った活動ができる機会を提供し、多くの方の参加で取り組んできました。

コープ・ボランティアセンター（CVC）開設

「被災地に行ってボランティア活動をしたいけれど、個人ではなかなか行けない…」という人に活動してもらえるよう、いわて生協が開設。CVCに登録された方にボランティア募集のニュースをお届けし、参加を募って活動しました。バスボランティアのほか弁当づくり、商品へのシール貼りなど、この２年間で109企画を実施、のべ4,647人が活動しました。

CVCの活動への常勤者の参加はのべ823人。宮古市内の事業所に勤務する常勤者は、震災直後から地元のボランティア活動に継続して参加してきました（のべ309人）。

CVCと労働組合が共催「バスボランティア」

バスに乗り合わせて被災地へ行き、ボランティア活動をする「バスボランティア」は、CVCといわて生協労働組合が共催。2011年6月～12年12月に92回開催し、陸前高田市と大槌町で家屋からの泥出しや家財の片付け、河川や海岸の清掃、整地や畑・花壇づくりなどの活動に、のべ3,552人が参加しました。2013年も4月から再開しています。

バスボランティア開催状況

年度	開催	参加人数
2011年度	51回	1,900人
2012年度	41回	1,652人
計	92回	3,552人

復興応援商品を共同購入で取り扱う際には、商品に番号シールを貼る作業も。

ボランティアさんの力に感謝します。

陸前高田市
佐藤定実さん

生協のみなさんを中心に、畑の再生や小屋づくりを手伝ってもらいました。小屋の土台と柱は何とか自分で建てたけど、高いところには上がれないし、材料もないし、お金もないし…。とても自分一人ではつくれなかったので、助かりましたよ。ありがとうございました。

2012年10月、陸前高田市竹駒町滝の里仮設

2013年1月、宮古市宮町あゆみ公園仮設

仮設住宅集会室などでの「ふれあいサロン」

被災された方の心のケアと交流を目的に、お茶を飲みながらのおしゃべりや軽い運動、手芸、カラオケなどで楽しく過ごす場。2011年6月、陸前高田市の避難所からスタートし、現在は野田村・宮古市・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市・盛岡市で、毎月56回開催しています。

このふれあいサロンを運営する組合員ボランティアは、盛岡市・花巻市・北上市・一関市からバスで乗り合わせて沿岸被災地の会場へ。また、地元の組合員ボランティアが運営しているものもあります。

ふれあいサロン開催状況

年度	開催	参加	ボランティア
2011年度	133回	1,573人	893人
2012年度	482回	5,026人	2,117人
計	615回	6,599人	3,010人

被災した方に寄り添った活動をめざして

被災地のニーズに沿って開催を増やしてきた「ふれあいサロン」。「ボランティア研修会」や「傾聴ボランティア養成講座」を開催（9回161人参加）し、ボランティア参加する人を広げる（登録は397人）とともに、被災した方に寄り添った内容での運営をめざしてきました。

また、盛岡チームリーダー会（毎月1回）、ボランティア打ち合わせ会（4会場）を開催しながら、運営体制を確立してきました。

ボランティアどうしの交流会も。

全国の生協からも支援

このふれあいサロンのお茶菓子や活動に使う材料などを、四国4県をはじめとする生協から支援いただきました。また、コープかながわ・コープとうきょうには、「夜のお茶っこ会」「夕涼み会」を開催していただき、日中は仕事で参加できない方や男性にも参加してもらうことができました。

日中のふれあいサロンには参加できない方にも、来ていただけました。

集まれる場をつくれてよかった！

「じゃーん！」「きれいだね～。ステキ！」作品を見せあいっこ。

生協が各地で「ふれあいサロン」を開催していることを知り、自分の仮設でもやりたいと申し出て、開催するようになりました。飲み物やお菓子のほか、手芸用品など、活動に必要なものは生協からもらえます。「ぬりえ」をしたときは、みんな童心に返って真剣な表情で手を動かし、それと同時に口も動かし笑いが絶えませんでした。やっぱり、こうしてみんなと顔を合わせて話したり、いっしょに何かをする機会があるといいですね。

（宮古市　赤沼好恵さん）

“ほっ”とする時間に

「みんなと集まることができるようになって一年経ったんだね」と、一年前のことを思い返している方がいました。初めて開催した時は、参加者のみなさんも私たちボランティアも、涙でいっぱいの会でした。今は、笑顔と冗談も飛び交うようになり、月１回のこの会を本当に楽しみにして来てくださいます。おしゃべりすることが“ほっ”とする時間になっているんですよね。　（ボランティアの感想）